

社団法人日本有機資源協会 会員各位

JORA バイオマス通信 Vol.2

(社)日本有機資源協会がお届けするバイオマスの利活用に関する最新情報です



< 今回のニューズピックス >

行事予定

P.2~P.3

- ・BS-TBSにて「ニッポンぐるり、バイオマスの旅」を放送中
- ・第12回国内視察研修「宮崎のバイオマス利活用施設視察」開催のお知らせ
- ・社団法人日本有機資源協会 第17回総会 開催のお知らせ
- ・第53回バイオマスサロン開催のお知らせ
- ・第54回バイオマスサロン開催のお知らせ

長野県飯田市在住のバイオマスタウンアドバイザーのご紹介

P.4

特定非営利活動法人 南信州おひさま進歩 理事 池戸 通徳 氏
「快適かつ温暖化対策を体験する住宅を一般公開」



注目のバイオマスタウンご紹介

P.5

宮城県大崎市
「大崎市バイオマス利活用推進委員会が、3つの循環型アクションプランを検討」



今、注目のバイオマス関連企業をご紹介

P.6

合同会社バイオガス・ネット・ジャパン
「日本初の再生可能エネルギーのネットワークづくりを目指して」



バイオマスマーク取得企業をご紹介

P.7

株式会社ヤマトマネキン
「未利用のおが粉や貝殻を樹脂に使用した日本初のバイオスマネキンは、
エコプロダクツ大賞奨励賞を受賞」



その他

P.8

- ・バイオマスタウン構想公表情報
- ・バイオマス利活用支援マスコット販売中
「バイオマスくん」に色をぬってかわいいストラップをつくらう！

行事予定

・1月31日(日)～3月21日(日) BS-TBSにて「ニッポンぐるり、バイオマスの旅」を放送中

日本全国のバイオマス利活用取組を追う全4話！！

地球温暖化防止や地域の活性化などを旨として、生ごみや家畜排せつ物、間伐材などのバイオマスを利用する取組が、いま全国で広がってきています。バイオマス利活用に関する全国各地での取組を紹介するバイオマス特集番組、「ニッポンぐるり、バイオマスの旅」が1月31日から全4話で放送開始。地域の特色を活かしたバイオマスの掘り起こしや、企業・住民・行政が一体となったバイオマス利活用システムの構築、バイオマスタウンの最先端を紹介していきます。

1月31日(日)14:00～14:30放送 [第1話 ～減らせCO2！～]

2月7日(日)14:00～14:30放送 [第2話 ～いろんなモノからエネルギー！～]

2月14日(日)14:00～14:30放送 [第3話 ～ムダなモノひとつもないよ！～]

2月21日(日)15:00～15:30放送 [第4話 ～ひろがるバイオマスタウン～]

2月28日(日)14:00～14:30放送 [第1話 ～減らせCO2！～]

3月7日(日)14:00～14:30放送 [第2話 ～いろんなモノからエネルギー！～]

3月14日(日)14:00～14:30放送 [第3話 ～ムダなモノひとつもないよ！～]

3月21日(日)14:00～14:30放送 [第4話 ～ひろがるバイオマスタウン～]

～ ～

・3月3日(水)～4日(木) 第12回国内視察研修「宮崎のバイオマス利活用施設視察」開催のお知らせ

当協会はバイオマスの総合的な有効利用の促進を図り、持続可能な循環型社会の構築と環境保全に寄与することを目的として、普及啓発事業、人材育成事業、バイオスマーク事業、バイオマスタウン推進事業及び研究開発事業などを推進しております。

特に人材育成事業では、「バイオマスタウンアドバイザー養成研修」、「バイオマス利活用総合講座」、「コンポスト生産管理者養成研修」や関係者が一同に介して、バイオマス利活用に関して効果的な情報交換、有用な知見の習得等を行う機会を設けることを目的とした「バイオマサラウンド」などを実施し、積極的に人材育成に取り組んでおります。

この度は通算12回目となるバイオマス利活用施設事例の視察研修として、木質バイオマスの利活用をはじめとして、鶏糞を利用した発電施設、バイオガス発電施設、焼酎粕のリサイクル事例などを中心にバイオマス利活用施設を視察研修することといたしました。

< 訪問予定先 >

株式会社フォレストエナジー門川 木質ペレット製造 (宮崎県東臼杵郡門川町門川尾 10760-1)

国内有数の林業集積地である門川町に三菱商事㈱の事業投資先「株式会社フォレストエナジー門川」が平成20年8月から営業開始。製造能力日本最大の25,000トン/年(三菱商事は日田と併せて年50,000トンのペレット供給能力を保有。原料は宮崎県北部地域で活用されずに破棄や放置されている森林バイオマス資源(杉や檜の樹皮=パークや間伐材)を利用して製造し、石炭ボイラーでCO₂排出量削減の為に石炭と混焼される再生可能燃料として利用されている他、農業用ハウスの加湿用燃料等として利用されています。

みやざきバイオマスリサイクル株式会社 鶏糞焼却ボイラー発電事業 (宮崎県児湯郡川南町大字川南 4621-1)

国内初の大規模鶏糞発電施設で 県内の養鶏農家の鶏糞を直接焼却し、その熱の全てを電気に変換している。一日約400トン、年間で13.2万トンの鶏糞を焼却しており、焼却灰は高い濃度のリン・カリウムを含む肥料原料として販売。発電出力は11,350kwを有し、年間で約17,000戸分に相当する電気を生み出しています。

県内の養鶏農家、ボイラー会社、電力関連会社が共同出資し、平成15年5月に設立。



小林市バイオマスセンター

家畜の増頭に伴い、家畜排泄物による畜産公害の苦情が周辺住民から多く寄せられ、畜産振興の阻害要因となっている状況となっていることを受け、バイオマスセンターを設置。

本施設は、家畜の糞尿を発酵処理して得られる良質堆きゅう肥を耕種農家へ供給し、畜産農家と耕種農家の有機的結合を図ることを目的として、国・県・市の補助を受けて昭和 58 年 3 月に完成。その後、平成 3 年に堆肥舎・機械装備・特殊運搬車を導入し処理機能の整備を図り、平成 17 年にメタン発酵処理施設の整備を図りました。

平成 15 年度広域畜産環境対策事業で、自力で処理できない農家の家畜糞尿と生ゴミの処理を実施するために小林市が処理施設を新設し、有限会社小林堆肥センターが運営。

株式会社高千穂牧場 農業環境保全及び有機資源循環施設（宮崎県小林市大字細野 300）

平成 17 年 10 月に施工された家畜糞尿規制に対応するために、平成 17 年 3 月に運転を開始したメタンガス発電施設。乳牛用の糞尿を発酵処理する過程で発生するメタンガス(6,000～7,000 m³/月)を利用して、ディーゼルエンジンを回し、発電している。発電出力は 30kW(12 時間運転/日)発電した電力は牧場と牛乳加工施設、観光施設で利用し、電力会社からの購入量を削減。また、発酵処理を終えたほとんど無臭の糞尿は場内の草地に還元。

霧島酒造株式会社 焼酎粕リサイクルプラント（宮崎県都城市下川東 4-28-1）

芋焼酎の製造工程で発生する焼酎粕(約 400t/日)、芋くず(10t/日)、芋くずの希釈水としての工場廃液(10t/日)を高温メタン発酵させ、バイオガスを回収する。メタン発酵により焼酎粕に含まれる芋の繊維、皮などの発酵残渣物は約 70%処理・縮減される。また、水分は下水放流できるまで浄化する。一方、別工場の既存施設から運ばれる脱水ケーキ(焼酎粕の固形分を分離し、水分 85%まで脱水したものを)を乾燥・飼料化する施設を併設して乾燥機の熱源にバイオガスを利用する。バイオガスは焼酎粕 1t 当り 40N m³(20 万キ kcal)回収できる。これは約 23 世帯の 1 日の電力消費量に相当する。将来は焼酎工場の熱源として利用することも考えています。

第 12 回・新エネ大賞「新エネルギー財団会長賞(優秀導入活動法人部門)」を受賞。

・3月26日(金)

社団法人日本有機資源協会 第 17 回総会 開催のお知らせ

- 開催時間: 13:00～15:00
- 開催場所: 馬事畜産会館 2 階 大会議室(東京都中央区新川 2-6-16)
- 議事: (1)平成 22 年度事業計画及び収支予算について
(2)役員を選任について
(3)提言について

・3月26日(金)

第 53 回バイオマスサロン開催のお知らせ

- 開催時間: 講演及び質疑応答 / 15:00～16:40、意見交換・交流会 / 16:45～18:00
- 開催場所: 馬事畜産会館 2 階 大会議室(東京都中央区新川 2-6-16)
- 講師: 農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課 政策情報分析官 澤田 清 氏
- 演題: 農林水産業における地球温暖化対策について

・4月22日(木)

第 54 回バイオマスサロン開催のお知らせ

- 開催時間: 講演及び質疑応答 / 15:00～16:40、意見交換・交流会 / 16:45～18:00
- 開催場所: 馬事畜産会館 2 階 第 2・3 会議室(東京都中央区新川 2-6-16)
- 講師: 環境省地球環境局地球温暖化対策課 調整官 立川 裕隆 氏
- 演題: 温暖化効果ガス 25%削減に向けた政策及び取組について(仮題)



長野県飯田市在住のバイオスタウンアドバイザーのご紹介

「快適かつ温暖化対策を体験する住宅を一般公開」

特定非営利活動法人 南信州おひさま進歩
理事 池戸 通徳 氏



略歴

- 1963年 長野県飯田市生まれ
- 1982年 飯田市役所に採用
上下水道組合、出先支所(戸籍・住民記録)、病院(経理・建設・庶務)、会計出納、企画調整、都市整備、環境(新エネルギー・環境政策)、病院医事を経て、2008年より保健課(健康推進)に従事し、現在に至る。
- 2005年 NPO法人 南信州おひさま進歩 理事に就任
- 2006～07年 平成18年度バイオマス・ニッポン総合戦略高度化推進事業人材育成事業を受講し、バイオスタウンアドバイザーを取得
- 2007～10年 農林水産省 環境バイオマス総合対策推進事業 人材育成事業検討委員会 委員

手掛けた構想案:

- 2006年 岐阜県白川町策定
- 2008～09年 長野県飯田市策定(協力)

バイオスタウンアドバイザーになったきっかけ:

2003年2月に、「持続可能な森林の活用をめざすスウェーデン」という、NGO ナチュラルステップが主催する研修視察に行く機会に、偶然にも恵まれたことが、温暖化対策、特にバイオマス利活用への関心や取り組みにつながりました。

スウェーデンには、福祉国家を経て「環境先進国」へと移行してきた経緯があります。視察では、国の財産である豊富な森林から木質バイオエタノールを製造し、それを使って市バスを走らせたり、エタノール車普及に対して優遇政策を投じたりする様子を見ました。また、国、大学、NGO、企業などが、立場を超えて協働して、自然エネルギー普及への改革に努めていました。

この背景には、国民に森林を大切に思う気持ちと享受する権利があることや、「バックキャスト思考」、または、森の中の野外生活体験・幼児環境教育が活かされているものと、推察できました。

私は、地方自治体の職員としてよりも、または環境NPOの立場というよりも、一人の人間として、「未来を担う子供達に対して何が残していけるだろうか」を考えたときに、バイオマス利活用が急務だと痛切に感じています。

化石燃料に依存しない持続可能な地域社会を構築するためには、まちづくりにビジョンを掲げて、子供や孫達に引き継げる自然エネルギー政策やバイオマス事業を推進していかなければならないと思い、バイオマス総合戦略を実行すべく、最初のアドバイザーに手を挙げました。

現在の仕事について:

私は、主に温暖化防止を目的に、バイオマス利活用やそのビジネス化を想定した「いいだ eco-ENERGY 館」を開設しました。詳しくは、<http://blog.goo.ne.jp/iida-eco> をご覧ください。

3K…これからは“環境”、“観光”、“健康”の時代。だから、「快適かつ温暖化対策を体験する住宅」として一般に公開し、持続可能な森林の活用をはじめ、温暖化対策、新エネルギー省エネルギーの利活用について、ご提案ご案内しています。



<いいだ eco-ENERGY 館の主な特徴>

- 地域産材である「根羽杉(ねばすぎ)」で建築しました。いい香りがする、次世代型省エネ住宅です。
- 木質バイオマスエネルギーを活用すべく、ペチカ(メイスンリヒーター)を設置し、薪のある暮らしを提案しています。
- もちろん木質ペレットストーブも愛用しています。
- 冬以外は、自家用車にバイオディーゼル燃料を使用することに努めています。

飯田市の特徴について:

飯田市は、2009年1月23日に「環境モデル都市」に選ばれました。国は、低炭素社会を実現するために、温室効果ガス排出削減に高い目標を掲げて先駆的に取り組むモデル都市を選定し、重点的に支援しています。飯田市は未来の都市像に「環境文化都市」を掲げて、その理念に基づいて、「多様な主体による協働」を原動力に、低炭素なまちづくりを進めています。

また昨年11月末に公表したバイオスタウン構想では、特に未利用バイオマスの活用ほか、温暖化対策と地域経済の好循環につながる仕組みづくりを推進します。持続可能なまちづくりを理解してくれる「住民」を増やすことが重要であり、住民が、バイオマス利活用を意識する「環境マインド」を持つことが課題です。

飯田市の84%を占める森林の活用では、エネルギー化はもちろん、地域産材で住宅建築することで林業振興することが重要です。また、健康増進の点では、森林セラピーなど「健康」をキーワードにしたエコツーリズムにも効果が期待されます。



注目のバイオマスタウンご紹介 ～宮城県大崎市～ 編 「大崎市バイオマス利活用推進委員会が、3つの循環型アクションプランを検討」

役所所在地： 宮城県大崎市古川七日町1番1号
TEL:0229-23-7090 FAX:0229-23-7578
役所URL: <http://www.city.osaki.miyagi.jp/>
人口: 136,920人(男性66,450人、女性70,470人、47,102世帯/平成21年10月1日現在)

大崎市について: 大崎市は、平成18年3月31日に1市6町が合併し誕生しました。位置は宮城県の北西部にあり、栗駒国立公園を有する奥羽山脈の雄大な森林や荒雄岳と船形連峰を源とする豊かな流れの江合川・鳴瀬川が、広大で肥沃な平野を形成し、日本を代表する「ササニシキ」、「ひとめぼれ」発祥の一大穀倉地帯です。
また、天然記念物のマガンやヒシクイなどの渡り鳥の越冬地で、ラムサール条約湿地の「蕪栗沼・周辺水田」、「化女沼」や、豊富な泉質で全国に名高い名湯「鳴子温泉郷」があり、自然と共生した癒しとやすらぎの観光が楽しめる市です。

<バイオマスの利活用について>

対象バイオマス: 家畜排せつ物、食品加工残さ、廃食用油、製材残材、ヨシ、なたね、ひまわりなど
成果物: 堆肥、バイオディーゼル燃料、木質ペレットなど
利活用施設: Hi-sofit21 通木リサイクルセンターなど
事業実施主体: 大崎市、事業所、NPO団体、研究機関

利活用の状況: 大崎市は東西に約80kmと長い行政エリアで、標高1,200mの山間地帯や農業、畜産が盛んな地域と商業施設や工業が広がる市街地が存在しており、バイオマス資源が豊富な地域です。

この豊かな資源を利活用するため、今年度設置した大崎市バイオマス利活用推進委員会では、バイオマス事業を実施している企業や各種団体等、学識経験者、市民代表が連携し、構想の具現化に向けた重点施策として次の3つの循環型アクションプランを検討しています。

一つ目の「菜の花・ひまわりプロジェクト」は地域協議会が2か所設置され、現在実施しているひまわり油の製造のほかに、耕作放棄地や観光地等に菜の花を栽培し、食用油を搾油、料理利用後にバイオディーゼル燃料を製造し公用車等で利用する計画です。今年度、農林水産省や経済産業省の補助事業に採択され、施設建設も始まっています。2つ目の「ヨシプロジェクト」は、ラムサール条約湿地保全のため、これまで野焼きで焼却されていたヨシを木質ペレット燃料とし、公共施設等に使用する計画です。3つ目の「生ごみプロジェクト」は、鳴子温泉郷等から発生する生ごみを堆肥や液肥、バイオガスに変換し、農地還元やバイオエネルギーを施設等で利用する検討を行っており、温泉熱などの自然エネルギーと併せた「エネルギーパーク」を目指していくものです。



<ご担当者様のコメント>

大崎市産業経済部農林振興課

佐藤敬美 様:



平成21年3月に公表したバイオマスタウン構想は、環境保全や農産物の品質向上、地域の活性化を目標に掲げ、市内のバイオマス資源をモノやエネルギーとして循環させ、地産地消型の循環社会を形成するためのもので、市民意識の向上やライフスタイルの変換等を目指したソフト事業を主としています。

そのため、事業の進捗状況をよく聞かれるのですが、ハード建設とは違い、結果がなかなか目に見えず、バイオマスの啓発活動の重要性を強く感じています。バイオマスは生物由来の生きた資源であり、賞味期限もあります。市民に理解され協力をいただける体制を整え、バイオマス資源の市民回収やプラントの建設などを検討するため、市民講座やシンポジウムの開催、環境教育を実施し、市民にバイオマスのもたらす効果を知って、広めて、使ってもらうことを推進していきます。



今、注目のバイオマス関連企業をご紹介
「日本初の再生可能エネルギーのネットワークづくりを目指して」

企業概要

社名: 合同会社バイオガス・ネット・ジャパン
 (代表企業 兼松株式会社)

住所: 〒105-8005
 東京都港区芝浦 1-2-1 シーパンスN館
 (兼松株式会社エネルギー統括室新事業室内)

連絡先: 代表企業 兼松株式会社
 エネルギー統括室 新事業室 梶内尚史
 事業推進部 ビジネス・インキュベーション・チーム 課長 黒田秀一
 TEL:03-5440-8862

資本金: 110万円

事業内容: バイオガス事業に関するコンサルティング業務及びバイオガス製造に関する機器の販売、精製バイオガスの製造、精製バイオガスの販売。

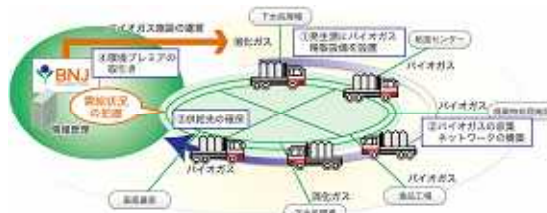


設立の経緯:

弊社は、2005年に設立された「バイオガス・ネットワーク・コンソーシアム」(主催:日本総合研究所)を前身とし、主に下水汚泥、食品廃棄物、産業廃棄物、畜産廃棄物などを活用したバイオガスの研究を進めてきました。その後、バイオガスの実証事業を通じて事業化のメドが立ったため、2008年1月16日にバイオガスの回収・精製・流通の事業化を推進する合同会社「バイオガス・ネット・ジャパン」を設立しました。出資会社は、兼松(株)、(株)オリエンジオサービス、(株)市川環境エンジニアリング、出光興産(株)、吸着技術工業(株)、ダイダン(株)、東京ガス・エンジニアリング(株)、テスコ(株)、日本ガス(株)、(株)日本総合研究所、太陽日酸(株)の計11社です。

精製バイオガス供給事業の特徴:

下水処理場、廃棄物処理施設などのプラントで精製したバイオガスを圧縮容器に充填し、輸送して流通させる事業モデルは日本で初めての試みです。メタン濃度95%以上に精製するバイオガスは、都市ガスや天然ガスの代替として、または混合利用が可能です。精製バイオガスは、天然ガス自動車等の燃料とするほか、外部需要家へボンベで輸送し、燃料として利用できます。バイオガスの供給は、輸送コストを考慮し、地産地消型のエネルギー事業を想定しています。弊社は「再生エネルギーのワンストップサービス」として、顧客の企業や自治体のニーズに合わせた事業の発掘、提案をはじめ、エネルギー需要家の発掘から、設計、施工までのプロジェクトに参加し、事業化を目指します。



熱資源としてバイオガスへの期待は依然として大きく、その市場性は高いと考えています。政府のCO₂の削減、エネルギー対策などの政策により、事業の可能性を探る調査依頼や問合せ件数は増えています。具体的な案件としては、佐賀県唐津市(2009年5月末:バイオマスタウン構想を公表)でプロジェクトが進行中のほか、四国、九州地域の自治体、企業と事業化を目指して活動中です。

精製バイオガス供給の実績:

<アレフプロジェクト> 環境省の地球温暖化対策ビジネスインキュベーター事業[2007年10月~現在も継続中]
 北海道千歳市内の酪農家から恵庭市内の(株)アレフのハンバーグ工場まで輸送し、ボイラーの燃料として利用しています。



<垂水プロジェクト> NEDO バイオマス熱利用フィードテスト事業[2007年6月~2008年3月実証終了]
 鹿児島県垂水市の養豚農家から“道の駅たるみず”まで輸送し、コージェネレーションの燃料として利用しています。



バイオスマーク取得企業をご紹介 ～株式会社ヤマトマネキン～ 編

「未利用のおが粉や貝殻を樹脂に使用した日本初のバイオスマネキンが
エコプロダクツ大賞奨励賞を受賞」



社名：株式会社ヤマトマネキン
 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-16-8 4F
 お問い合わせ：TEL:03-5836-0831 / FAX:03-5836-0841
 E-mail: e-honbu@yamato-creation.com
 事業内容：ディスプレイ器具・マネキンのリース・レンタル・販売、店舗の企画・設計・施工
 資本金：6,000 万円
 創業：昭和 22 年 5 月
 取得製品：バイオスマネキン
 取得時期：2009 年 7 月 3 日(植物由来・写真左)、10 月 8 日(貝殻由来・写真右)
 語る人：取締役 上席執行役員 営業本部 副本部長
 東京支店長 柴田 兼吾さん

バイオスマネキンの特徴：

今までのマネキンの素材は、石油系プラスチックを使用した FRP(ガラス繊維強化プラスチック)が主であるため、リサイクルできず産業廃棄物扱いされ、リサイクル可能な製品はありませんでした。バイオスマネキンは未利用の“おが粉”を樹脂に 37%使用した製品でプラスチックでありながら、木のぬくもりを感じさせるところが大きな特徴です。同製品には、“おが粉”を混ぜたブラウンと貝殻を混ぜたホワイトがあり、世界初のバイオマス素材を使用したマネキンとして現在特許出願中です。

開発の経緯：

当社のマネキン原型室が千葉県の八街市(やちまた)にあり、技術者が勤務しています。この社員の紹介で千葉県産業支援技術研究所が主催する「木質プラスチック部会」に参加しました。その部会で知り合った方から千葉県山武市(平成 17 年 11 月末、バイオスタウン構想を公表)をご紹介いただきました。同市では、山武杉の間伐材でいらなくなった“おが粉”が大量に発生する問題を抱えており、環境改善の一環として、「バイオマスプラスチックをマネキンに応用できないか…」と考えたのが最初のきっかけになります。

バイオスマーク取得の理由：

当初、バイオスマネキンの営業活動は思うように進みませんでした。営業先には「これはバイオマス製品です」と売り込みをかけても営業先の担当者はバイオマスそのものを知らないため、理解すらいただけず大変苦労しておりました。営業活動をすればするほど、当社としては製品の信頼を得られる「通行手形」のようなものが欲しかった。そこで、ある方からバイオスマークが取得できる情報を得たため、窓口である日本有機資源協会様をご紹介いただきました。



実績：

商業施設、百貨店などはエコロジーへの取り組みの表現方法を模索しています。こうしたニーズにバイオスマネキンは合致し、新宿伊勢丹百貨店ではメインのディスプレイに使用され好評を得ました。さらに、埼玉県の越谷イオンレイクタウンでは、地元の“おが粉”を原料に使用したバイオスマネキンをディスプレイに使用することで製造・流通・小売の川上から川下までの一貫した取り組みとして評価されました。こうした実績により、エコプロダクツ大賞推進協議会が主催する「第 6 回エコプロダクツ大賞」の審査委員長特別賞(奨励賞)を受賞することができました。



今後の展開について：

本年度、未利用のバイオマス素材を 51%使用したバイオスマネキンの開発プロジェクトを立ち上げ、強度の観点から樹脂メーカー様と協力しながら新たな製品開発を進めております。今後は全国各地の未利用バイオマスを地産地消で活用できるツールになればと期待しております。マネキン製造技術は“ローテク”ではありますが、エコビジネスとして世界に誇れる製品作りを目指します。



その他

バイオスタウン構想公表情報

新規公表(平成 21 年 11 月 30 日、第 38 回公表):3 構想

・長野県飯田市(いいだし)

飯田市は、低炭素で活力あふれる地域社会を目指す環境モデル都市として、林地残材や生ごみ、家畜排せつ物など地域に賦存するバイオマス資源を可能な限り最大限利用し、循環型地域社会の形成を図ります。

・滋賀県湖北町(こほくちょう)

湖北町は、バイオマスの有効な利活用により循環型社会の実現・地球温暖化防止、農林水産業の振興、環境学習の推進につなげ、人と自然が共生するまちづくりを進めることを基本に、生ごみ・廃食用油、剪定枝、廃棄紙、浄化槽汚泥、林産資源などのバイオマスのたい肥化やエネルギー利用により、環境こだわり農産物を生産・提供するなど循環システムの形成を目指します。

・宮崎県延岡市(のべおかし)

延岡市は、林地残材等の木質バイオマスをチップ化・ペレット化し、火力発電所の燃料や公共機関、農業用の暖房用燃料として利活用を図る。また、家畜排せつ物や生ごみ、下水汚泥等の肥料化とその利用促進により、資源循環型社会の構築と地域産業の活性化を図ります。

新規公表(平成 22 年 1 月 29 日、第 39 回公表):3 構想

・神奈川県大磯町(おおいそまち)

大磯町は、地域で発生する生ごみの資源化、廃食用油の BDF 化、剪定枝のチップ化、し尿汚泥・家畜排せつ物・農漁業廃棄物の有効利用を通してごみの減量化・資源化、循環型社会の形成を目指す。

・三重県名張市(なばりし)

名張市は、持続可能な取組みとして、需要と供給のバランスを図って地域内での利活用を基本とし、インプットとアウトプットを多元化することを理念に、森林資源の利活用、一般生活廃棄物の利活用、住民参加型の利活用を特徴にして、たい肥化のほか、バイオガス化、バイオエタノール化、エマルジョン燃料化、ペレット燃料化などによるエネルギー化や、木質系バイオマスのマテリアル利用により環境産業の創造を目指す。

・大阪府河内長野市(かわちながのし)

河内長野市は、市域の7割が森林という特性を活かし、薪ストーブを公共施設に設置し、薪等の利用を行うなど木質バイオマスの利活用や、従前から拠点回収を行ってきた廃食用油を SVO 又は BDF としてエネルギー利用に取り組むなど、河内長野らしい豊かな自然を活用した「環境調和都市」の実現を目指す。

バイオマス利活用支援マスコット販売中

「バイオマスくん」に色をぬってかわいいストラップをつくらう！



この「バイオマスくん」ストラップは、間伐材などを原料とする木粉プラスチックを使用しており、その自然な「木の質感」や「香り」が特徴です。また、石油由来のプラスチック製品に比べて、二酸化炭素の排出量をほぼ半減できる、地球温暖化防止に貢献するエコ製品です。環境学習の教材としてもご利用いただけます。

バイオマスくん プラ袋入り(リーフレット・ストラップ付き)

価格(税込み):175 円(おが粉、樹皮、竹)

< 本通信の内容に関するお問い合わせ先 >

社団法人日本有機資源協会 嶋本 浩治

〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 401

TEL: 03-3297-5618 / FAX: 03-3297-5619 / E-mail: shimamoto@jora.jp

URL: <http://www.jora.jp>

共同 PR 株式会社 牧 安彦、林 健志

〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

TEL: 03-3571-5365 / FAX: 03-3569-0862



バイオマスくん
©Ochappi/SPiRiTS

